

平成26年
12月24日(水)発行
滋賀の縁創造実践センター

「ふく・楽café～縁～」第1回企画を開催しました

—ふくしの仕事と楽しく生きる—

12月10日(水)17時～19時、縁結び・つながりづくり小委員会による「ふく・楽café～縁～」を開催しました。この事業は、「専門職同士がもつとつながろう」「専門職も助けられ上手になろう」をテーマに、現在福祉を学んでいる学生の皆さんと、さまざまな職種福祉現場で生き生きと働いている職員が出会い、柔らかく話をするなかで、多くの人とつながってケアワークやソーシャルワークをすることを楽しく感じ、今と未来の滋賀の福祉の現場力を高めることをねらいとしたものです。

記念すべき第1回企画は龍谷大学社会学部臨床福祉学科、地域福祉学科にご協力いただき、龍大生を対象に開催しました。ゆるやかなリラックスできる空間で職員が現在の仕事に就いた経緯、仕事への考え方や休日の過ごし方までざっばらんにスピーチ。その後はブース交流で親睦を深めました。



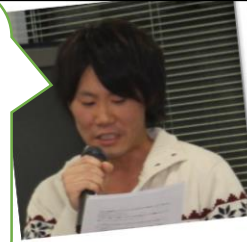
ゲストスピーチで聞けなかった疑問を聞きに、各分野のゲストのところを転々とする学生たち。「縁ってどんなところ?」「高齢者福祉を勉強しているけど、児童のことは知らなかった…」ふくしの後輩から先輩に質問は続き、話は尽きることはありません。学びと発見を楽しむ姿が見られました。



障害児のキャンプに行って、言うことを聞いてくれない子どもが僕の手を「ぎゅっ」と握ってきたんです。その時「あれ?」って思った。その「ぎゅっ」と握られた手の感触、その、何かを伝えたい手の感触を追いかけて、そのまま今この仕事をしています。(増野隼人氏・びわこ学園)

ちょこっと紹介★キラッ★と輝く職員によるゲストスピーチ

経験は自分にしかない宝物。社会人1年目のころから自分で決めた道のりを歩いていけたこと自体は自信になった。皆さんが福祉の世界に入ったなら、ぜひ先を見据えてビジョンをもっておくことをお勧めします。今も日々変わっていく自分の介護観を模索することがやりがいにつながっています。(山本崇司氏・特養カーサ月の輪)



(山本亜紀子氏・特養カーサ月の輪)

数年前までこのキャンパスに通っていました。児童虐待の対応はひとつの機関ではできないから、さまざまところと連携しています。仕事はやればやるほど「自分、できてへんな～」と思うことが多いけど、その気持ちを引きづらないようにオン・オフのメリハリをつけてやっています。休日は、龍大でできた友達20人ほどとよく遊んでいます!(属美沙子氏・大津市子ども家庭相談室)



参加者約20人中、約半数が「将来ふくしの仕事につきたい」との思いから参加してくれました。そんな学生の皆さん、参加してみても感想は…

- ・堅くない感じで、進路について考えることができた。
- ・1人ずつ質問できて話しやすかった。
- ・仕事につかれた経緯を聞くことができたからよかった。
- ・仕事のことはもちろん、その方自身の家庭のことも見れた
- ・コーヒー美味しかったよ!
- ・全員が仲良しのような雰囲気でした。
- ・なごやかで和気あいあいとしていた。
- ・短かったですが、とても楽しかった。
- ・大学のなかなかなので参加しやすかった。またやってください。

出張カフェ：グリーンキッチン



…などなど、うれしい声がいっぱい。

- ・「参加して、ふくしの仕事にどんなイメージを抱きましたか?」との問いにも、
- ・夢があるなあと思った。
- ・縁とタイミング!楽しんで働きたい。
- ・仕事につくことも選択肢に入った との回答が寄せられました。



今後も県内各地で開催予定ですので、皆さん
よろしくお願ひします!!



自分がじいちゃんやばあちゃんに怒られながら育ってきたから、今自分が住んでいるまちをそんな地域にしたい。対象は地域の住民で、いろんな世代の人がいるが、「あんたがいうようにやってよかったわ」と言われることがやりがい。福祉を楽しく!がモットー。(中西知史氏・東近江市社協)

皆さん、熱いですね～!(笑) 学生時代、自分には福祉の仕事はできないと思い、実習が嫌で仕方なかった。でも、実際に行った先で熱い職員に出会ったことでその気持ちは劇的に変わった。そのまま面接を受け、今に至ります。学生のみなさんには、今日はせっかく来たんやから美味しいコーヒーを飲みながら、この縁から何かを感じとって帰ってほしい。(岩原勇氣氏・Brah=art)



ご参加およびご協力いただいたみなさん、
本当にありがとうございました!